

ふれあい

☎ 市青少年育成市民会議 ☎ 42-3511

『HEKIREKI』の想いをつなぐ ～2023二十歳を祝う会～

1月8日(日) 春を思わせる晴天に恵まれる中、二十歳を祝う会を開催しました。法令改正に伴い、名称を成人式から変更しましたが、昨年同様二部制として実施しました。

毎年、実行委員が一年をかけてプランを立て創り上げていくこの会。昨年つくられた曲『HEKIREKI』を引き継ぎ、和太鼓に挑戦しました。恩師によるビデオレター、和太鼓演奏と会が進むにつれて参加者が引き込まれるように集中していきます。

参加者の醸し出す静寂の中、力強い和太鼓、篠笛の演奏、腹の底から絞り出される掛け声。これまでの練習が自信の源となった堂々たる演奏でした。



碧綾～二十年間の出会い・軌跡に感謝を～

二十歳を祝う会実行委員長 角谷美玲

成人年齢が変更されて初めてとなる二十歳を祝う会を多くの方々のご協力とご指導のもと無事終えることができましたことを、深く感謝申し上げます。

今年のテーマは『碧綾(へきりん)～二十年間の出会い・軌跡に感謝を～』。私たちが生まれ育ってきた碧南市の「碧」と様々な布が折り重なる「綾」。20年間で得られた経験の重なり、出会いと交わりに対して感謝をしようという想いをテーマに込めました。

私たち実行委員10名は、昨年の成人式で実施された先輩方の姿に惹かれ和太鼓に挑戦しました。昨年の演奏とは違ったものにしたい、先輩方の演奏を超えたいといった思いからアレンジを加え、3ヶ月間練習を重ねてきました。途中、それぞれの式に対する思いや考え方が異なる時もありましたが、話し合いや折衷案を模索していき、全員が同じ方向を向き式典当日を迎えることができました。

式を終えて、恩師の方々・市関係者の皆さまや同級生にお褒めの言葉を多くいただきました。この3ヶ月

間は濃密で多くの学びある時だったと思っております。成人式から二十歳を祝う会へと変更になり新たな1ページを私たちが築くことができたのは沢山の方々のご支援ご協力があつたからこそと感謝いたします。

私たちのこれからは沢山の出会いが待っていることでしょう。その出会いに感謝をしながら、これから起こりうる困難や日々移り変わる激動の今に立ち向かっていきます。私たちには碧南という帰る場所があるからこそ、新しい未来へ羽ばたくことができます。いつか帰ってきた時に、これまで出会ってきた人々に恩返しができるように私たちはこれからを歩んでいきます。



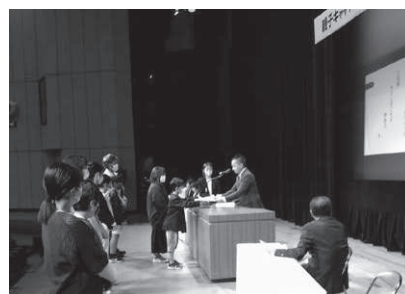
第19回「親子キャッチ575」 最優秀作品と表彰式

青少年育成市民会議

「親子キャッチ575」の作品募集に、市内の小中学校、高等学校からたくさん応募をいただき、3,408点の作品が集まりました。

そして、多くの方に祝福していただこうと、10月30日(日)に行われた碧南市文化祭芸能発表会の中で表彰式を行いました。例年とは違う文化会館大ホールという大きな舞台上で、最優秀作品、優秀作品の合計30点を表彰し、多くのみなさんに祝福していただきました。

今年は、世界情勢を受け、例年の作品テーマに「戦争のない、平和な世界への願いや想い」を加えました。家族の中での話し合いを通して平和への想いを高め、平和への願いを綴った作品がたくさん寄せられ、今年ならではの作品が集まりました。それぞれの思いが込められ、その中で家族の絆や温かい家族の様子が伝わってくるものがたくさん見られました。



第19回親子キャッチ575最優秀作品

ママがすき

じいじもばあばも だいすきよ

棚尾小学校一年 井上あさひ

なぜそこに

パパがいないの さびしいな

父

「入れている」

スーパーにある ぼきんぼこ

棚尾小学校二年 仲間蒼一郎

現地への

子どももできる 支援の手

父

公園で

セミのぬけがら 見つけたよ

日進小学校三年 新美 綾乃

部屋の中

脱ぎ捨てた服 見つけたよ

母

マラソンで

ついに勝ったぞ 母ちゃんに

中央小学校四年 梶川 鈴翔

うれしさと

悔しさ混じる 親心

母

温かい

ごはんが食べれる しあわせだ

日進小学校五年 杉浦 史桜

ゆつくりと

ごはんを平和 かみしめる

母

守りたい

ぼくを飼ってと 鳴いたねこ

棚尾小学校六年 栄森 琴絵

守りたい

出会った命と 思いやり

父

反抗期

逃亡先は 祖母の家

中央中学校一年 佐々木虎太郎

更年期

かわいい孫に 癒される♡

祖母

うちの母

文句の数だけ 愛がある

西端中学校二年 道下 葛花

そのことを

気付けるあなたに 一安心

母

SWITCHの

電源つける 受験生

南中学校三年 楠亘田のん

いいかげん

やる気スイッチ つけなさい

母

友達とは

笑顔をつなぐ 宝物

碧南工科高校一年 神谷 尊

親友は

ひとりだけでも 無敵だよ

母

おやじの会

おやじの会の活動のねらいは、「父親同士の交流を図って連帯感を高めること」「子育てを母親任せにしないで、父親も家庭教育に関心をもつこと」「子どもの理解を深め、子どもからの信頼を得ること」です。そして、それぞれ親子参加型のイベントを工夫し実践することで、地域ぐるみでの子育て、親育ての一助を担っています。

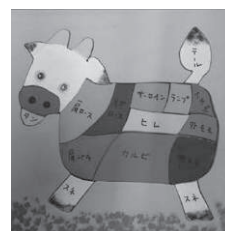
今年度は、活動できることを増やそうという声に呼応して、市内のおやじの会連絡会として2回の実技研修会を開催しました。また、今年の7月には、市制75周年記念イベントとして「みんなあつまれ だるまこまつり」を予定しています。

木工パズルづくり研修会 ～5月14日(土)～

西端おやじの会の川崎さんを講師としてお迎えし、木工パズルづくり研修会を行いました。

市内各地区から13名の方が参加し、牛の部位名を表した木工パズル作りに挑戦しました。糸鋸で部位に切り分け好みに応じて着色します。皆さん、久しぶりに使う糸鋸の操作に戸惑いながらも、各地区での開催に向けて学びました。デザインは、昆虫や鳥など豊富です。

この後、西端おやじの会では、8/7(日)に子どもたちを集め、親子木工パズル教室を開催しました。



ピザ窯づくり研修会 ～10月1日(土)～

第2回研修会として、日進公民館でピザ窯づくりに挑戦しました。材料となるのは、防災備蓄用食料として確保されているクラッカーの入っている一斗缶。切って、曲げて、取り付け。キャンプ等で一度に3枚焼けるピザ窯ができました。ふたもあり、スモークチップを入れて燻製窯としても活用できます。

この研修を受けて、中央地区では11/12(土)にピザ窯づくりに挑戦しました。



若者の新たな門出のお手伝い ～二十歳を祝う会～

碧南市の成人式は、実行委員会を中心に創り上げられ、その前後の年齢からなるHEXPOスタッフとともに運営されています。しかし、年々HEXPOスタッフのメンバーも減り運営が難しくなりました。

そこで3年前、新成人が幼少の頃よりイベント等で関わり気軽に声がかけられるおやじの会に助けが求められ、成人式のスムーズな進行や運営のお手伝いに加わるようになりました。

今年成人式から「二十歳を祝う会」と名称は改められましたが、今後も引き続き場内警備や誘導の係に従事し、これから碧南を担っていくであろう若者の新たな門出を祝福していきたいと思ひます。



元気なあいさつのキャッチボール

碧南少年野球育成連盟 鳥居 牧夫

キャッチボールの基本は、「相手の胸に投げる」「受けた方も相手の胸に投げ返す」「それれば動いてしっかり受け取り、また相手の胸に投げ返す」です。

あいさつも会話も、キャッチボールと同じだと思えます。相手の胸をめがけて元気な声をかけ、声をかけられたらこちらも元気な声で投げ返す。これが大切です。

今回のテーマは『大人が変われば子どもも変わる』。親（大人）の背中を見て子どもは育っていきます。見本となる背中を見せるといっても、長年培ってきたものの、どこをどう変えていいのかわからないと思えます。

「人の振り見て我が振り直せ」という諺もあります。人の振りを見て、良い所、悪い所、何かに気づいて少しでも変えていければ、そして子どももそれに気付いて少しでも変わっていければ素晴らしいことだと思います。

まずは、誰にでもできる「元気なあいさつのキャッチボール」が明るい家庭、明るい街づくりの第一歩だと思います。



子どもの潜在能力を引き出し伸ばすために

生涯学習支援専門員 高橋 泰

子どもは無限の可能性を秘めた原石です。その可能性を引き出し、伸ばしてやるのが親を含めまわりの大人の役目だと思います。

可能性を引き出すためには、子どもたちに思い切ったいろいろなことに挑戦する機会を与えることが大切です。子どもたちは、さまざまな挑戦をする中で自らの適性を見出し、夢（目標）を明確にしていきます。

原石を磨いて光り輝く宝石にするためには、削り込むカットから荒い目での研磨、細かい目での磨き込み、それぞれの段階での磨き方があります。夢に向かう子ども（原石）も同様に段階に応じた磨きが必要で、この磨きをかけるのが指導だと思います。

子どもの創造性を育む『子どものつどい』

碧南市子ども会育成連絡協議会 佐藤 聖志

市子連では、毎年子どものつどいを開催しています。この取り組みでは、子どもたちが主体性を発揮できるように子どもの意見を尊重しています。子どもたちは自らやりたい出し物を決め、それをいかに実現させるかアイデアを出し合い企画します。そして、大人は子どもの発想が実現できるように助言、補助します。

本番前の実行委員会では、自分たちの出し物について説明します。慣れない人前での発表に、戸惑いながらも一生懸命伝え、これもよい経験となっています。

今年は『敵をたおせボール投げ』『森の中で虫とりボーリング』など、10の単位子ども会が連合で5つのブースを開設しました。それに市内の550人の親子が来場され、大盛況でした。

今年は、市内各種団体にも参加を呼びかけました。

HEXPOが手作りによる『わにわにパニック』、青少年育成推進員が『缶バッジづくり体験』のブースを開き、子どもたちと交流しました。

子どもたちは家庭や学校だけでは育たない、地域ぐるみで子どもたちを育む大切さを再認識する良い機会となりました。

才能を伸ばすためには、時に厳しく限界近くまで追い込まれながらも歯を食いしばって頑張りぬく経験が必要です。これを乗り越えた時、技術的にも人間的にも成長します。

ところが、今は言葉のかけ方や指導方法に敏感になるあまり、強く追い込む指導がしにくい状況があります。そのため、「ほめて伸ばす」ことに偏ったことになり、ここの一番の大切な場面で頑張り切れず逃げてしまう子どもを増やすことにつながっている気がします。

だれもが子どもたちの夢を実現させたいと考えています。常に念頭に子どもの目指す姿を思い浮かべ、そのために時に強く言い切り指導できる、そんな大人でありたいと考えます。